

1. 評価結果概要表

平成 19年 11月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201054
法人名	株式会社 フジミヤ
事業所名	グループホームやすら木の家
所在地	長野県松本市島立2225-1 (電話) 0263-40-3711

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月19日	評価確定日	平成19年12月27日

【情報提供票より】(19年 10月 31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤12人	非常勤4人 常勤換算6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(200000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要 (10月 31日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2名	要介護2	5名			
要介護3	6名	要介護4	3名			
要介護5	2名	要支援2				
年齢	平均	85 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相澤病院、島内診療所、大久保クリニック、清水メンタルクリニック、なお歯科医院、杉山外科医院、杉山歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやすら木の家は、まさに木の家であり、懐かしさや安らぎ感あふれる居住空間を持っている。又4つの基本理念「心地よく、穏やかに」「ゆとりの時間と空間」「個性を重視する視点」「入居者の権利の保証」の下、運営者、全職員が一丸となって入居者一人ひとりの残存能力を最大限に活かすためのケアに努められ、主体性、自己決定を尊重し、満足度や達成感を持った日常生活が送れるよう支援されている。認知症高齢者の生活環境を整え、少人数の人間関係の中での生活により、リハビリ効果が得られ、認知症にともなう行動がケアによって緩和が見られ、入居者は高齢で介護度が高い方々が多い中、穏やかに、ゆったりと過されている。中には趣味を持って生き生きとホームでの生活を楽しまれている方もいる。なお終末期に対する指針が定められ、入居者、ご家族、医療機関、ホームと話し合いが持たれ、重度化に伴う意思確認書も作成されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 重要事項説明書に入居者の権利・義務が明示された。入居者、ご家族の意見が反映された介護計画書が作成されている。時間に関係なく入浴支援を行う事が可能になった。退去支援や感染症マニュアルの充実が図られた。市町村との連携が図られつつあり今後さらに継続した取り組みに期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義や目的を職員全員で理解しており、今回の自己評価(ホームの主体的な取り組み、自己点検、評価表記入など)にあたりカンファレンスにおいて職員全員で取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 年間計画に運営推進会議が組み入れられ、入居者、ご家族、地域住民等幅広い立場の方々に参加し、会議の意義や目的を説明して活発な意見交換が行われている。ホーム概要説明や理念に基づいた運営方針、サービス提供における現況報告、ホームと地域との連携について具体案を取り上げ検討が重ねられている。現在までに三回の推進会議を持たれ懸案事項の完結に向け進行しつつあります。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月経過ごとに介護計画が作成され、ご家族に送付し、意見を記入しホームへ返送していただく仕組みがつけられている。ご家族訪問時や運営推進会議においてご家族の意見が表出できる場面づくりに留意されている。ご家族より出された意見や要望についてカンファレンスにおいて検討し反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者が散歩の折に挨拶を交わしたり、近隣の方々より野菜の差し入れを頂いたりホームへの繋がりが深まりつつあります。また地域行事への招待を頂いたり、地域の方々の見学や高校生のボランティア・中学生の職場体験等の受け入れが行われておりホームへの理解と連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が明確な理念を持ち、理念を職員、入居者と共に具体化し、入居者により大きく書かれロビーに掲示され共有化が図られている。しかし地域密着型サービスの役割が反映された理念となっていない。	○	グループホームの基本方針にある「家庭的な環境の下で」という表現が平成18年より改正により「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」に改められました。今後地域生活の継続支援とホームと地域の関係強化を謳った理念の構築に期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と共に具体化されたホーム理念を掲示すると共に、日常的に話し合わせ共有化が図られ日々のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への招待(老人会より敬老会・保育園より運動会等)を頂いたり、高校生による介護ボランティアの受け入れ、中学生の職場体験の受け入れ、地域の方々の見学受け入れ等、日常の挨拶、近隣より野菜等が届けられている。訪問時にもホーム見学者が見え丁寧に対応がされていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム関係者は自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、サービス評価を重ね改善に向け検討をし実践に取り組まれている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画に運営推進会議が組み入れられ、入居者、ご家族・包括支援センター・町会副会長・ホーム職員等の参加により定期的開催されている。ホーム全体の状況等の報告やその都度懸案事項の説明と共に、参加者より質問・要望・意見を頂き検討し、ホームの福祉サービスの向上に向け取り組まれている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へ出席いただき指導を受けられると共に、ホームで取り組まれている事案について相談がけがされている。	○	今後更にホーム機能を活かし市町村との連携を図り、認知症予防教室等の受諾を積極的に行い、地域に還元して行かれることを望みます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	介護計画へ「今日の私」を毎月集約し、介護計画が作成され「やすら木だより」と一緒にご家族に送付されている。職員や入居者の撮影した一人ひとりの写真も同封したり、面会時に手渡されている。金銭管理についてはご家族訪問時に説明し、サインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームより毎月発送されている、「今月の私」の記録書を読んで頂き、ご家族よりご意見を記入し返送して頂く仕組みがつけられている。なお運営推進会議においてもご家族が意見表出ができる場面づくりに配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者がユニットに縛られることなく、各ユニットを自由に行き来できるシステムにより職員との馴染みの関係が築きあげられ、職員の異動や離職による影響が少ないよう配慮がされている。	○	今後更に職員の異動や離職を最小限に抑える取り組みと、やむなく離職等の状況発生時には入居者、ご家族の信頼関係を築くためにも、新人職員の紹介方法への配慮が望まれます。

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者より研修費の補助と勤務扱いの配慮があり、職員の外部研修の受講を積極的に行っている。なお研修後報告書によりカンファレンス時に全職員に周知が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学を受け入れると共に、公開的な行事に参加されている。	○	今後更に他ホームとの交流を図り研修の場を設けサービスの質の向上に向けての取り組みに期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者やご家族をお茶に招き短時間の訪問や、三泊四日の体験入居等により生活に馴染むまで入居者の生活リズム合わせる配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の場面々において入居者本位を重視して急かせることなくゆっくり、ゆったり過されている。なお入居者は人生の先輩としての考え方を職員が共有し、相談がけをしたり入居者の経験から教えられることの多いことを伺った。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中より入居者の思いを把握されている。(比較的入浴時や買い物同行時の会話より希望・意向が出やすいことを伺った)言葉の表出困難な方には時間をかけ表情の中より汲み取られると共に、ご家族から情報を得る工夫がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「今日の私」と題した生活記録に入居者の日々の生活状態を記載し、一ヶ月経過後「今日の私」に集約されている。「今日の私」により全職員で共有し、話し合った意見を集約した上で計画作成が行われている。返送されたご家族の意見も一緒に綴じられ計画作成に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月行われるカンファレンス時に介護計画の見直しが行われると共に、入居者に状態変化に応じ、速やかに計画の見直しが行われ、毎日記録している「今日の私」に変更された介護計画がすぐに反映されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	安全・機能重視(機能訓練)をして、訪問マッサージの施術・無料歯科検診・保健師・耳鼻科・薬局等を利用されると共に、医療連携体制を整え、終末期に向けてのフォローに配慮されている。なお入居希望者の見学等の受け入れも行われ入居者、ご家族が安心して暮らし続ける為の支援が行われている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は主治医を利用し、通院介助は基本的にはご家族同行により受診されている。しかし緊急を要する時は職員による通院介助をすると共に、ご家族に情報提供が行われている。薬は指定薬局から一括して届けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針(★わたしたちが考える「あきらめない介護」-重度化、看取りに関する考え方★終末期の経過-入居から終末期への経過等が図解されている)が定められ、入居者、ご家族、医療機関と話し合いを持ち、重度化に伴う意志確認書が作成されている。なお職員にも注意点の共有を図り、入居者の意思の尊重を重視したケアに努められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護法を理解しており、個人記録等の保管に配慮されている。入居者の尊厳を保持しつつ言葉遣いについても入居者が使い慣れている言葉に配慮して使い分けがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの出来る限り入居者の希望にそえるよう配慮されている。(若者が利用されているコーヒーショップに行かれコーヒーを楽しんだり、好きな本を本屋さんへ行き購入される等)		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に合わせ食材の買出しや、調理・盛り付け・洗い・片付け等職員と一緒に進められている。なお食事時には職員と同じテーブルで会話をしながら、入居者の身体状況に合わせた食材形状に配慮された食事が提供され、職員の優しい見守りと支援を得て食事を楽しまれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入居者の意思を尊重し希望する時間に入浴が出来る。入浴嫌いな方にも強制にならない声掛けをして安心感をもって入浴が出来るよう配慮されている。時にはお仲間同士仲良く入浴を楽しまれている。家庭サイズのお風呂と、大きめの2ヶ所の風呂があり、現在は利用者はいないが重度化に備えて特殊浴槽も設置されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意分野を把握されて調理・盛り付け・片付け・食器洗い・洗濯物(タタム・干す)大工仕事・買い物・ドライブ(2~3台)・カラオケ・写真撮影等により役割や楽しみごとの支援を入居者の要望を聞きながら行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の見守りの支援により買い物や散歩に出かけたり、時には入居者の希望により外食や喫茶店にコーヒー等を飲みに出かけられている。近くの売店、コンビニ等にも出かけており、電話での連絡やそっと見守りの支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関には日中施錠されていない。入居者は何時でもホームから出入りができ、突発的な外出にも寄り添いの支援が行われている。		

グループホームやすら木の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警備会社の協力を得て、ホームでは年2回の避難訓練が行われている。なお地域の協力体制については運営推進会議において協力を要請されている。	○	今後更に災害種類(火災、地震、台風、水害、大雪等)に考慮し、地域に応じて具体的な想定が必要です。職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、日頃から、地域住民や警察署、消防署等の連携を図りながら、ホームの災害時対策に関する理解を求め協力体制を築かれることに期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をだまかに記録されている。なお体重測定や日々のバイタルなどに合わせ、健康状態のチェックもされている。	○	今後更に栄養バランスに配慮した食事の提供と定期的に管理栄養士等によるカロリー計算をして頂き栄養摂取量の把握をされると共に、水分摂取量についても職員間で共有を図られることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は清潔に保たれ、安全使用に配慮した造りになっており、2ユニットを自由に行き来している。なお写真撮影を趣味とされている入居者により、ホームの庭の四季のうつろいを写真に撮られカレンダーにして飾られている。またホーム行事場面を写真に収められ何冊ものアルバムが作成され何時でも閲覧でき、ホームでの生活感や季節感を味わうと共に入居者の会話の源となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品(衣装ケース、テレビ、家族写真、仏壇等)が持ち込まれ、入居者が居心地良く過ごせる工夫がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。